

沿岸水産資源の持続的利用の推進及び新漁場等の調査

II 沈設魚礁調査

漁業資源課 稲葉 太郎

1 目的

高知県では、沿岸漁場整備の一環として、人工礁、大型魚礁、並型魚礁等の人工魚礁を長期間にわたり多数設置してきたが、海上測位や沈設物探査の困難性等のため、正確な設置位置や詳しい配置状況が明らかでない魚礁が多かった。そこで、沈設魚礁の設置状況を明らかにし、漁業者に情報提供することにより、造成漁場の有効利用を図るとともに、適切な施設管理に役立てることを目的として調査を実施した。

2 方法

調査には県漁業調査船「土佐海洋丸（80 トン）」搭載のマルチビームソナー（Kongsberg Maritime 製 EM-710RD）を使用した。測位には DGPS 受信機（古野電気製 GP-150）を用いた。

平成 26 年 1 月 27 日、黒潮町大方地先に設置された、幡東地区広域型増殖場（北工区及び南工区）の設置状況を調査し、とりまとめ作業を行った。また、既往調査結果の取りまとめ作業と情報提供も行った。

3 結果

(1) 設置状況調査（幡東地区広域型増殖礁）

調査を実施した魚礁の位置を図 1 に示した。

本工区は、平成 10（1998）年度から 12（2000）年度に整備された広域型増殖礁であり、北工区と南工区に分けられる。

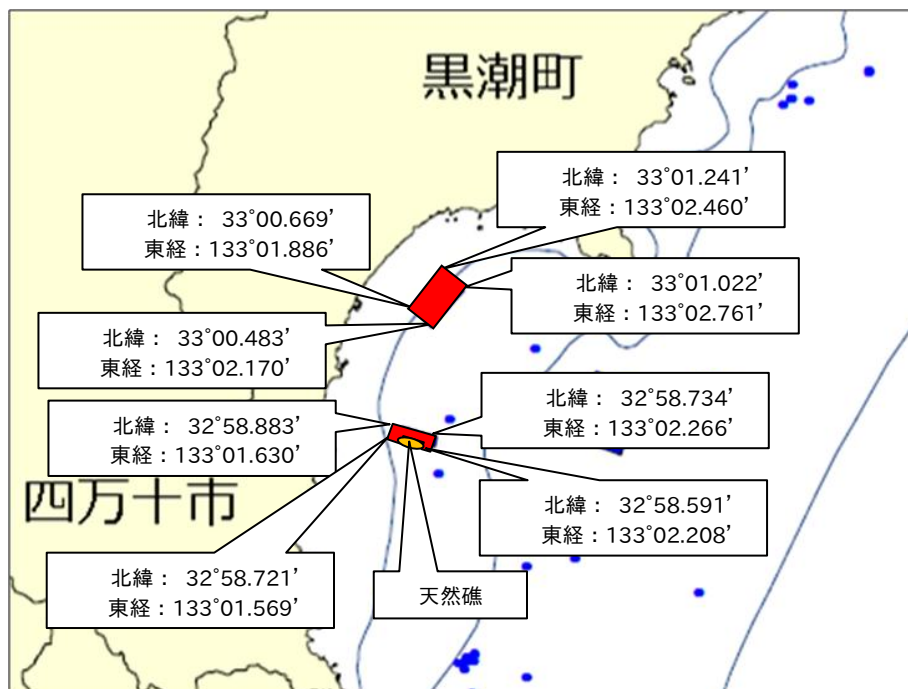


図 1 幡東広域型増殖礁位置図

1) 北工区の設置状況

北工区の魚礁の設置状況（海底地形図）を図2に示した。

増殖礁全体は、北東から南西へと約1,400m、北西から南東へと約600mの長方形に整備されていた。水深は、西端の最も浅い位置で23m、東端の最も深い位置で30mであった。

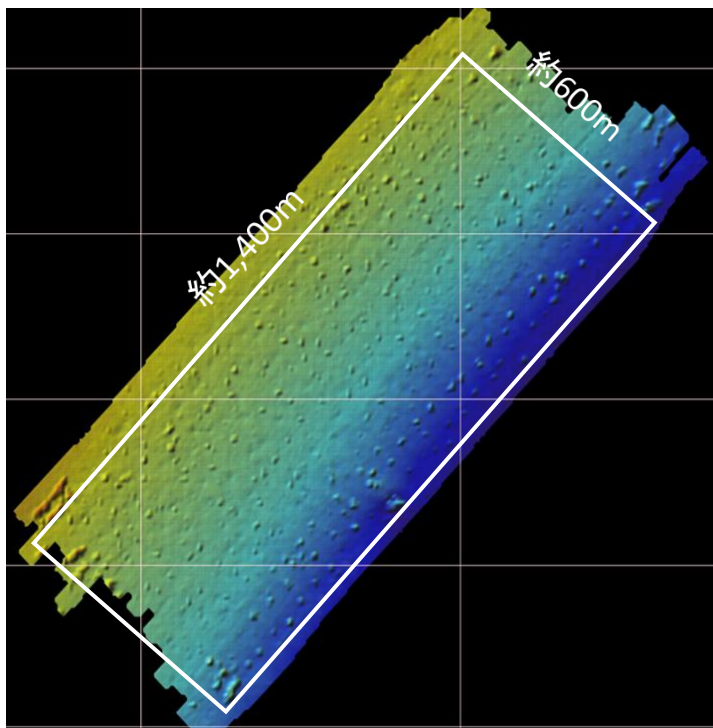


図2 幡東地区広域型増殖礁（北工区）設置状況

2) 南工区の設置状況（含天然礁）

南工区の魚礁の設置状況（海底地形図）を図3に示した。

増殖礁全体は、概ね逆凹型をしており、西北西から東南東へ約1,050m、北北東から南南西へ約340mの範囲に整備されている。また増殖礁南には、天然礁が隣接している。

水深は、南西端の最も浅い位置で29m、北東端の最も深い位置で39mであった。

工区南側に隣接する天然礁は、東西方向に約450m、南北方向に約200mの範囲に広がる。最浅部の水深は16mであった

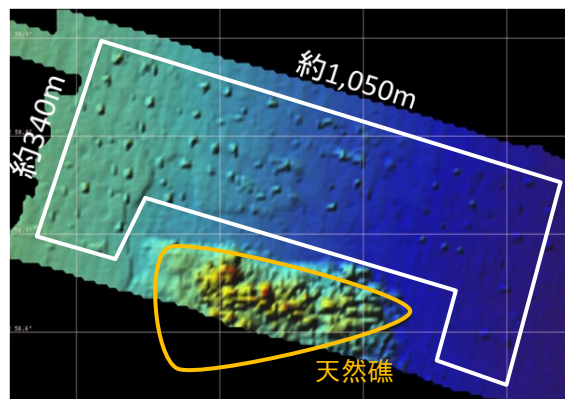


図3 幡東地区広域型増殖礁（南工区）設置状況

(2) 結果の取りまとめ及び情報提供

過去に調査を実施した人工礁2工区の調査結果について取りまとめを行い、漁業指導所を通じて漁業協同組合に報告書を提供した。